

吟道月報

NO.21

49.4.10

碩心会

大船支部の歩み

支部長 佐藤 博山

碩心会の冒杯、毎日吟道に精進のことと思います。

今回は大船支部を紹介いたします。大船支部は四十二年四月、逗子から分れました。現副会長の下条拓風先生、戸塚支部長の鈴木定生、大船の小山さん、平山さん、すでに退会された警察の林さんの五人が大船支部結成の中心になりました。教場も、大きな声を夜遅くまで出すので、いろいろな支障もあり、二、三度移転して現在の富士見町公会堂におちつきました。

支部結成から三年近くは加藤秀岳先生に指導をいただき、海軍行の転句へオ三句この「満室蒼蠅」では声を張り上げ、みっちり稽古させられたことも、今は懐かしい語り草です。かれこれするうちに会員も二十名を

越えるようになり、地元大船、戸塚方面、茅ヶ崎方面と大変な範囲に亘って会員が増えつづけましたが、後に戸塚

方面へ五人は戸塚支部を、茅ヶ崎方面へ三人はC班茅ヶ崎教場を設立することになりますが、四十五年の二月には本部、先生方、諸先輩、地元協力者の後援のもとに五周年大会を鎌倉の商工会議所で盛大に開催することができました。

この頃はすでに根岸晃宏先生に指導をいただいておりますが、とくなられた清笠先生も大船へは、ちよくちよくみえられました。

やがて教場も二班に分け、A班を年長向き、B班を初心者向きとしてA班は根岸定生、B班は三井先生に指導をいただき今に至っております。

四十六年七月には下条拓風先生、佐藤博山、準会員の坂本靖彦さんの三人を中心としてC班茅ヶ崎教場が誕生しました。現在のC班は、地元茅ヶ崎、藤沢、平塚、寒川と各地から会員が集っており、将来が楽しみです。三

井先生と下糸先生が指導に當っております。又四十八年四月には、鈴木さん外四名が大船から分れて、戸塚支部を結成しました。現任会員は十名、三井先生、鈴木先生の指導のもとに、大船支部のA、B班、茅ヶ崎C班と時々、会員が交流して楽しい兄弟支部です。

かえりみると大船支部は設立以来九年の間に会員は四十名を越え、戸塚支部が生れ、A、B、Cと三つの教場が設立され吟道に励んでおります。先生、諸先輩の期待にこたえて、これからますます発展してゆくでしょう。

碩心会の皆杯、来船のおりは是非教場へおより下さい。A班は水曜日、B班は月曜日、午後七時半から階切りわきの富士見町公会堂で大船の吟声が高らかに聞かれます。又C班は金曜日茅ヶ崎海岸にある県立青少年会館です。

それでは、これで大船支部の巻とします。

総本部関係

六月二十三日(日)九段会館大ホールに於て六十六回全国吟道大会が開催されます。碩心会から十名以上の合吟(或は十名の合吟コンクール参加)が指定されます。

県本部関係

四月七日、県本部主催の第二回青少年吟道大会には碩心会から五名が参加盛況裡に終了しました。四時から三時までの気力一パイの熱吟で、会場には若さが溢れ頼もしい吟道の将来性が汲み取られました。

碩心会本部関係

◎ 四十九年春季卒休者は左の通りでした。

初段(20名) 二段(48名) 初任(25名)

三段(19名) 四段(17名) 中任(19名)

五段(5名) 六段(6名) 奥任(3名) 計162名

◎ 許証授与の日時は決定次第お知らせします。各支部は各任位組の代表者を決めて参列させて下さい。

◎ 月報掲載の支部シリーズ、五月は一色支部と沼面支部にお願ひします。

月報十大号記載の順序になりますから、各支部長は予め準備方お願ひします。特に詳しい記事でなくて結構です。

新会員

会員の異動

一色支部 石渡千賀 堀内一〇三七 電(75) 〇〇七六

一色支部 矢野コト 一色二四九 電(75) 一九三七

沼面支部 小林浩三 池子二の十の六

退会会員

124 青木フミ(死七)

279 平子賢治

訃報

◎ 桜山支部の青木フミさん、四月一日病気のため急逝されました。謹んで哀悼の意を表します。中任美山を四月一日附で追贈されました。生前の御意志により支部会員による追悼の詞の合吟が霊前、火葬場、御遺族の前で吟じられました。

◎ 三井会長夫人三月二十日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。